



柏崎市天文同好会

岸 勝巳

KISHI KATSUMI

1959年 柏崎市出身

1996年 柏崎市天文同好会発足

夏の夜空を見上げると天の川をはさんで明るく輝く1等星がわし座のアルタイルと、こと座のベガ。そして、はくちょう座の1等星デネブを結んでできるのが夏の大三角形。夜10時頃の空を見上げるとちょうど真上に3つの1等星が並び、夏の星座探しのガイド役になっている。

星空観察会のガイド役としておなじみの、「柏崎天文同好会」が柏崎地域の天文教育の普及を目的に発足したのは1996（平成8）年、今から25年前になる。

「それまで天文に関する会が柏崎にはなかった。興味のある人たちに声を掛け、同好会を作ろうというのが始まり」と教えてくれたのは、発足当時から事務局を務める岸勝巳さん。当時、岸さんは勤務していた柏崎第一中学校のPTA会長だった松村昌明さん、山田智さん（現第一中学校長）、内科医の本間保さんらと共に4人で同好会を立ち上げた。会には定例会や年会費、会報発行などはなく、メール等で連絡を取り合いながら定期的に星空観察会を開催したり、会員が撮影した天文写真を持ち寄り、写真展を開催するなどのイベントも行っている。地元新聞で月1回掲載の「お茶の間の天文

学」は20年以上続く人気コーナーで岸さんらが交代で執筆を担当している。

メンバーが集まるのは天文現象のある時。例年一緒に活動している流星群の観察は県内の他、気象条件を判断して時には群馬県の赤城高原や長野県の野辺山高原まで出掛けることもある。一番大きな活動は2017年の北アメリカ大陸横断皆既日食の観察。この時は会員のほぼ全員が揃い、皆既日食を完全に観察することができた。

また、過去にはSARSの影響で皆既日食観察の渡航をあきらめたこともあり、昨今は新型コロナウイルス感染症の影響により観察会も自粛を余儀なくされていた。

そんな中、天文同好会は子ども達にスマホ天体望遠鏡をプレゼントする「千の星空プロジェクト」に応募し無料提供を受けることになった。同好会が講師を務める市立博物館主催の星空観察会に今年度と来年度の計6回、この天体望遠鏡を提供。参加者が自分たちで組み立て、スマホのカメラレンズを重ねて、観察したり撮影して星空を楽しむ企画を予定している。

今後の天文現象は、8月12日前後にペルセウス流星群、9日・22日には木星の4つの衛星の相互食もあり、10倍くらいの双眼鏡でも十分観察できるという。

センス・オブ・ワンダーという言葉を知り、星が好きになったという岸さん。季節の星座の位置を学び心の余裕がある時に星を眺める、そういう息抜きをしてほしいとほほ笑む。同好会発足時からの天文台の常設という目標を継続して、今後も活動していきたいと話した。



スマホ天体望遠鏡

お問い合わせ

柏崎市天文同好会

✉ katumikishi@gmail.com

星空観察会は、柏崎市・市立博物館のホームページでご確認ください。

